

白岩記

一 白岩城主大江政廣公

承久合戦の時大江廣元の子に親廣あり義心公は肯似せを始めより上皇を守
護し事なり事敗るの日に逃れて羽州より来り寒河江の庄を有つ子孫相傳
い十八代大江高基公より山形最上義光に亡さる親廣より八代元
子二百余年大江茂時(或時信)に及び其子白岩三郎政廣白岩を
領し城を上の山(陣ヶ峰)に築く白岩城これあり

一 應仁乱後

天下麻の如く乱れ其後百年間諸王豪族戦争止むとあかりき
織豊時代残り出羽公に二人の英雄現る最上義光白鳥の十郎
とあり白鳥始め白岩を攻め支族白岩常刀をして白岩を治め
しむ時白鳥の臣は松長右門中常刀を善くし遂に常刀
を攻めて捕し已も亦亡はさる此の時白岩城主大江備前守廣隆
逃れて寒河江に存しか再び白岩に歸ることを得たりしが
なく最上義光に亡りさる

一 白岩城主大江備前守系圖

大江廣元 大江親廣 承久年間始り 親廣より八世茂時(或時信)

茂時の三男白岩三郎政廣(助太郎ト云) 白岩を領して備前守ト云

二世明代(孫六)三世廣茂(孫太郎)四世滿教(白岩(前守)五世滿廣
(備前守)六世宗廣(太郎ト云)七世廣隆(八郎ト云)備前守

一 大江備前守廣隆 天正五年丁丑最上義光の爲に亡はさる備前守
海味と松根某に殺さるる間沢村東泉寺葬る

一 白岩城主大江備前守滿教及び滿廣を加へて五世とあるあり
是れ滿教滿廣滿延村に封せられたれはありされども海延村も

一時白岩の領分とありき亦廣隆公天正甲戌同郡曾見村松
田三郎宅にて自殺せし如何を又廣隆を二年に高廣とある如きや

一 白岩城主松根備前守光廣系圖

最上義守の子にして義光の弟あり
後ち庄内の松根に移りし後ち最上家内乱によりて遂に立
花飛澤守に就りらば